

ユーナニ医学とは

ユーナン(Yunan)という言葉は、ペルシャ語では「ギリシャ」という意味である。そして、ユーナニ(Yunani)とは「ギリシャの」または『ギリシャに源をとするもの』という意味である。したがって、ユーナニ医学というのは、「ギリシャ医学」ということになる。しかしながら、これはギリシャ医学そのものを指すものではない。

九世紀の始めから、ギリシャ医学や薬学、またその他の科学書物はイランのジュンディーシャープル (Gondeshapur、ゴンディーシャープルとも呼ばれるイランの古代都市) でアラビア語に翻訳された。翻訳された書物の中には、ヒポクラテスやガレノス、ディオスコリデスの書籍もあった。



ゴンディーシャープル

世界最古の医学教育病院の本拠で、医科大学と図書館も含んでいた。

ギリシャのほとんどすべての医学書や科学関係の書物が10世紀までに翻訳された。またそのもっと以前から、インド医学古典書等はペルシャに翻訳されていたことが明らかである。これらの医学書はペルシャの古典医学と融合され、当時の研究者たちや人々の間で流行した。

古今、どの時代においても、人々の思考は、時代の流行に傾きやすいものである。今日の日本のように、自国に立派な整体術が江戸時代から伝承されてい

るが、欧米の研究者たちが、それを吸収し、カイロプラクティックやオステオパシーのような新たな分野として日本に逆輸出する。そして日本では整体よりも横文字のついたこれらの分野が流行する。

ペルシャにいた当時の研究者たちが、ペルシャ各地方の医学とギリシャ及びアラビア半島やインド等の医学を融合し、一般にユーナニ医学として親しまれた。

さらに、イブン・シーナーによって、もっとも深い臨床研究がなされ、彼によってユーナニ医学の永遠不滅の教範として、「医学規範」が確立された。

このように、ユーナニ医学という言葉は、イブン・シーナーの時代でもっとも研究されたと推測されている。

ユーナニ医学は「イスラムの医学」または「アラビアの医学」とも呼ばれる。しかし、これまた、一口でアラビア医学といっても、それは民族的にアラブ人の医学を指すものではない。むしろ、大半は反アラブ民族、すなわちペルシャ人（イラン人）トルコ人、ユダヤ人の医師たちによって確立された医学である。

当時は、イスラム教の導入によって、アラビア文字が公用文字として使われていたことから、アラビア医学という誤解を招き、今日まで引きずっているのである。

ちなみに、アラビア語では、ギリシャを「アル・ユナン、Al-Yunan」という。これはペルシャ語のユナンの発音とは違う。このことからユーナニ医学 (Yunani Medicine) は、ペルシャで命名され、確率されたということも判明できる。

戻る